

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

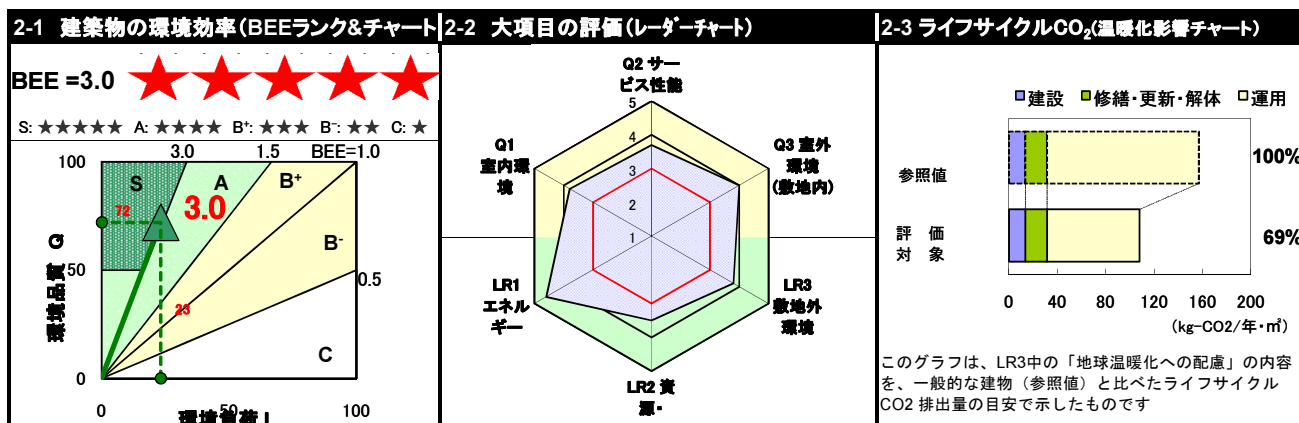
■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都水族館計画	階数	地上3F
建設地	京都府 京都市 下京区 観喜寺町 34	構造	RC造
用途地域	準工業地域、商業地域・準防火地域	平均居住人員	200 人
気候区分		年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年1月 予定	評価の実施日	2010年6月4日
敷地面積	98,348 m ²	作成者	
建築面積	5,956 m ²	確認日	2010年6月4日
延床面積	10,982 m ²	確認者	

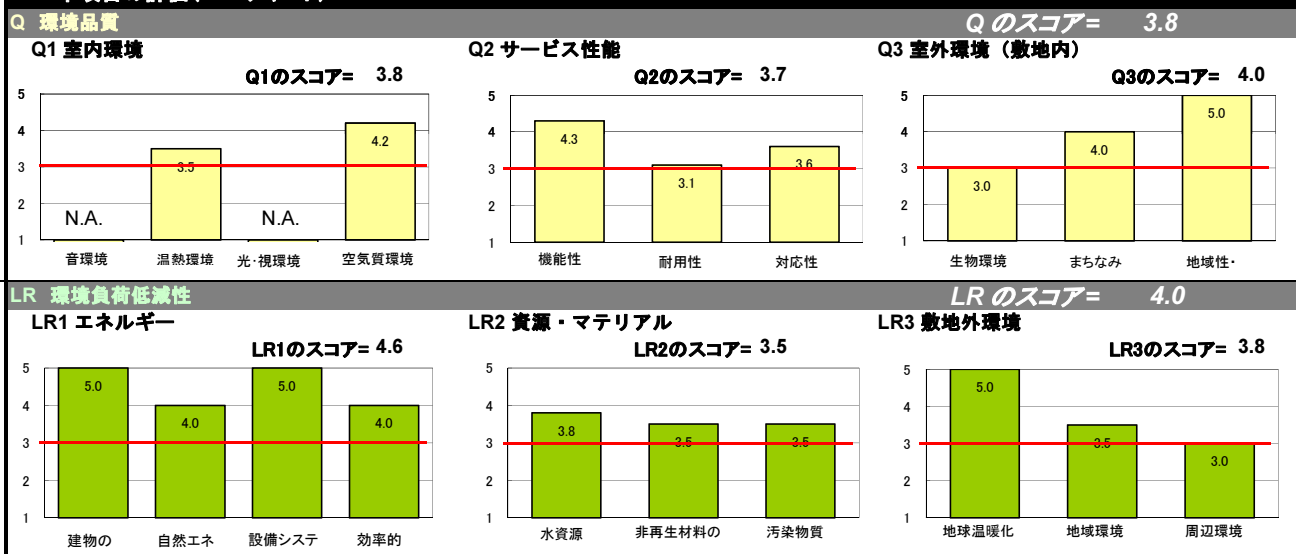
外観パース等

図を貼り付けるときは

シートの保護を解除してください



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
水、緑、風、光を展示空間に取り入れながら、水族館の施設特性を活かした水やエネルギーの循環利用を図る。又、景観的にも公園との一体化を図る。		水族館施設としては画期的な節水型、省エネ型の水処理システムの導入。イルカプール蓄熱利用。
Q1 室内環境 適切なゾーニング空調。 具体策: 空調・換気は客用・バック用でゾーニングを行い、所定の基準を満たす室内環境とする。	Q2 サービス性能 整形な展示スペースと設備展開スペース、及び適切な荷重想定により、可変性のある自由展示ゾーンを確保する。オールスロープによるユニバーサルな観覧動線を確保する。維持管理の容易な設備、仕上げとする。	Q3 室外環境 (敷地内) 緑化、水景、ガラスルーパー等により、公園との景観的な一体化を図る。
LR1 エネルギー 熱負荷の低減とシステムの効率化。 具体策: 高断熱化、応等の採用により、年間熱負荷係数の低減を図る。又、高効率空冷チラー、水蓄熱チラーの複合熱源を採用し、省エネルギーに努める。	LR2 資源・マテリアル 海水の再利用や雨水利用により超節水型水族館を目指す。 エコマテリアルの積極利用を図る。	LR3 敷地外環境 地域の温熱環境負荷や廃棄物負荷抑制を図る。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される